

ドイツ語 (初級 A) 第 11 回 話法の助動詞

範囲: 教科書第 7 課 (S. 29-31)

《今回の基本例文》

33. Darf ich dich einen Augenblick stören? (CD36-2)

一瞬だけお邪魔しても構いませんか?

[話法の助動詞 dürfen、時間を表す副詞的 4 格]

34. Können Sie Deutsch verstehen? (CD37-2)

あなたはドイツ語をお話しになれますか?

[話法の助動詞 können]

35. Du musst mehr Gemüse essen. (CD38-3)

君はもっと野菜を食べないといけない。

[話法の助動詞 müssen、不定数詞 viel、viel の比較級 mehr]

36. Wir sollen die Verkehrsregeln beachten. (CD39-2)

私たちは交通規則に注意すべきである。

[話法の助動詞 sollen]

37. Jürgen will Ingenieur werden. (CD40-1)

ユルゲンはエンジニアになりたい。

[話法の助動詞 wollen]

38. Ich möchte eine Tasse Tee trinken. (CD41-1)

私は紅茶を一杯いただきたいと思います (紅茶を一杯ください)。

[話法の助動詞 mögen、mögen の接続法 II 式 möchte、助数詞]

I 話法の助動詞

1 話法の助動詞の現在人称変化 (S. 29)

《話法の助動詞のおおまかな意味》

dürfen = may (許可)

können = can

müssen = must

sollen = should など

wollen = want to

mögen = may (推量)、like to (、like)

(möchte = would like to)

◇ 英語では、助動詞として *can, may, must, shall, will...*などを習い、「動詞の原形と併用する」と教えられた。ドイツ語にも助動詞があり、動詞の不定詞とともに使用される。ただし、助動詞は不規則な現在人称変化をし、使用するときの語順も英語とは大きく異なる。

* ドイツ語の助動詞は「話法の助動詞」と呼ばれる。ここでの「話法」は、直接話法や間接話法の「話法」ではなく、むしろ直説法や命令法や仮定法の「法」と関係がある。つまり、文の内容を単に事実として提示するのではなく、話者の判断 (可能、許可、義務、必然、推量、願望など) を含めて示す、という意味。以上は「話法の」を疑問に思った人のための蛇足的説明。

- ◇ 語法の助動詞の現在人称変化の特徴は、
- ・ 単数に対してのみ不規則変化、複数に対しては規則変化。
 - ・ **ich** と **er** に対する変化形が同じ。
 - ・ **du** に対する変化形の語尾は **-st** (規則変化と同じ)。

	dürfen	können	müssen	wollen	sollen	mögen
ich	darf	kann	muss	will	soll	mag
du	darfst	kannst	musst	willst	sollst	magst
er	darf	kann	muss	will	soll	mag
wir	dürfen	können	müssen	wollen	sollen	mögen
ihr	dürft	könnt	müsst	wollt	sollt	mögt
sie	dürfen	können	müssen	wollen	sollen	mögen

- ◇ もう一つ、教科書に掲載されている **möchte** は、正式には独立した語法の助動詞ではないが、頻出するので、やはりこの機会に覚えてほしい。

	(möchte)
ich	möchte
du	möchtest
er	möchte
wir	möchten
ihr	möchtet
sie	möchten

* möchte は mögen の接続法 II 式というかたち (英語の仮定法に相当、教科書 S. 70 に登場するが本授業では扱わない) であり、要するに mögen の別形である。

- ◇ 語法の助動詞と似たような変化をする不規則動詞に **wissen (vt.)** がある。

	wissen
ich	weiß
du	weißt
er	weiß
wir	wissen
ihr	wisst
sie	wissen

* 結局、語法の助動詞以外で完全に不規則な変化をする動詞は、sein, haben, werden, wissen の 4 つである。

wissen は情報を「知っている、わかっている、覚えている」意味で、人や物を「知っている、面識がある」ときは規則動詞の kennen を使う (英語の know の意味がドイツ語では 2 つの動詞に分かれている)。

Ich **weiß** die Wahrheit.
私は真実を知っている (= 真実をわかっている)。
Ich **kenne** ihn.
私は彼を知っている (= 彼と面識がある)。

■ 話法の助動詞を用いた文の語順

話法の助動詞 → 第 2 位 (定動詞の位置)
 不定詞 → 文末

◇ 話法の助動詞を用いた文の語順は、話法の助動詞を定動詞の位置に(平叙文や補足疑問文なら第 2 位、決定疑問文なら第 1 位)、不定詞を文末に置く。図示すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	話法の助動詞 (現在人称変化)	…	不定詞

となる。このため、英語とはまったく異なる語順になってしまうわけである。

He can speak English very well.

(助動詞) (原形)

彼は非常に上手に英語を話すことができる。

* 周知の通り、英語では、主語－助動詞－動詞 (原形) －目的語－副詞句の順になる。

Er kann sehr gut Englisch sprechen.

(助動詞) (不定詞)

彼は非常に上手に英語を話すことができる。

* 一方、ドイツ語では、主語－助動詞－副詞句－目的語－動詞 (不定詞) の順 (文頭が主語の場合)。

* 授業第 5 回配付資料 S. 1-2 で、「定動詞と最も結びつきが強い要素は動詞から最も離れた文末に置く」規則について説明した。

話法の助動詞を用いた文の語順も、定動詞である話法の助動詞と最も結びつきが強い不定詞を文末に置くので、この一種である。

** これまで登場した「定動詞と最も結びつきが強い要素」は、4 格目的語、移動の目的地、そして話法の助動詞に対する不定詞であった。ほかにも類似の語順はいたるところに出てくるので、その都度確認することにした。

i) Ich kann das nicht sagen.

私はそれを言うことができない。

* この das は *this* や *that* を意味する das (das ist ... というときの das)、中性の定冠詞ではない。

iii) Klaus will sie unbedingt heiraten.

クラウスは彼女とどうしても (無条件で) 結婚したいと思っている。

* heiraten は他動詞「(4 格) と結婚する」。

** 以上 2 つは基本的な平叙文。

ii) Morgen musst du früh kommen.

明日、君ははやく来なければならない。

* 副詞 morgen を文頭に出した平叙文の場合。

iv) Was können wir für Sie tun?

なにかお役に立てますか (私たちはあなたのためになにかできますか) ?

* 疑問代名詞 was を用いた補足疑問文の場合。

v) Darf ich hier rauchen?

ここで煙草を吸ってもよろしいでしょうか。

* 決定疑問文の場合。

■ dürfen の意味と用法

dürfen : 肯定 → 許可 (～してよい) = *may*
否定 → 禁止 (～してはいけない) = *maynot*

◇ **dürfen** は、許可の意味の *may* に対応し、「～してよい」という許可を、否定では「～してはいけない」という禁止を表す。

* 肯定系と否定形の関係は *may/maynot* と同じ。

Sie **dürfen** jederzeit gehen.

あなたはいつ立ち去ってもよろしい。(許可)

* jederzeit は副詞「いつでも」。dieser 型の jeder (= every) と Zeit (f. 時間) からできた語。

Hier **darf** man nicht parken.

ここには駐車してはいけません。(禁止)

* この man は漠然と人間を表す代名詞。敢えて訳すなら「人々」。(⇒授業第 9 回配付資料 S.3)

■ können の意味と用法

können (= *can*) : 可能 (～できる)
→ 許可 (～してよい)
推量 (～かもしれない)

◇ **können** は、*can* に対応し、「～できる」という可能を表す。そこから、「～してよい」という許可、および「～かもしれない」(= ～でありうる) という推量の意味が派生する。

Können wir hier in der Nähe etwas essen?

この近くで食事はできますか。(可能)

* etwas という不定代名詞が使用されている。etwas は漠然と「なにか」を表す代名詞 (英語の *something* に相当)。授業第 9 回配付資料 S.2 で覚えてもらった「物・事」を表す略記号、*et.*、*et.*などがいずれも etwas の略であるのはすでに述べた。

** Nähe は女性名詞「近所」、in der Nähe で「近所で」を意味する。

Das Kind **kann** noch nicht laufen.

その子はまだ歩けない。(可能)

* laufen は「走る」として登場したが (⇒教科書 S.15)、単に「歩く」の意味もある。

** noch は副詞「まだ」、noch nicht で「まだ～ない」の意味になる。

Kann ich gleich gehen?

すぐに立ち去ってもよろしいでしょうか。(許可)

* gleich は副詞「すぐに」。

Das **kann** wahr sein.

それは真実かもしれない。(推量)

■ müssen の意味と用法

müssen (= must) : ~以外に選択肢がない
→ 義務 (~しなければならない)
論理的必然 (~に違いない)

◇ **müssen** は、*must* に対応し、「~以外に選択肢がない」を原義とし、そこから「~しなければならない」という**義務**や「~に違いない」という**論理的必然**の意味が派生する。

* このため、似た訳になるとしても、下記の *sollen* (世間一般が~と言っている) とはニュアンスが異なる。

Auch der Vater muss für die Kinder sorgen.

父親も子供の面倒を見なければならない。(義務)

* für *jn./et.* sorgen は「(4 格) の面倒を見る」。前置詞を用いた熟語。

** *auch* は「~も」の意味で、英語の *also* に相当 (ドイツ語にも *also* という語があるが、別の意味になる)。

Die Menschen müssen sterben.

人間は死ななければならない。(必然)

* 「人間というものはいづれ死ぬ以外の選択肢を持たない」というニュアンス。

Er muss noch im Büro sein.

彼はまだ事務所にいるに違いない。(論理的必然)

* *im* は前置詞と定冠詞の融合形 (*in+dem*)。 (⇒授業第 8 回配付資料 S. 4)

■ sollen の意味と用法

sollen : 他者の意思 (誰かが~と言っている)
→ 道義的要求 (~すべきである) = *should*
噂 (~だそうである)

◇ **sollen** は、「(誰かが) ~と言っている」という**他者の意思**を原義とし、そこから「~すべきである」 (= 世間が~するものだと言っている) という**道義的要求**や「~だそうである」 (= 世間が~と言っている) という**噂**の意味が派生する。

* 語源的には *shall* と同じで、その仮定法形の *should* (~すべきである) に近い使い方もするが、上記のように原義は他者の意思 (~誰かが~と言っている) であり、意味も多様。

** 同じ「~すべきである」と訳す場合でも、上記の *müssen* (~以外に選択肢がない) とはニュアンスが異なる。

Du sollst nicht stehlen.

汝、盗むべからず。(道義的要求)

* ニュアンスは「君は盗まないものだ、と世間が言っている」。上の *Die Menschen müssen sterben.* と比較すること。

Ich soll Sie von Herrn Schmidt grüßen.

シュミットさんからあなたによるしくとのこと。 (他者の意思)

* 直訳すると、「私があなたに挨拶するものだ、とシュミットさんが言っている」。他者の意思における他者が *von+3 格* で明記されているパターン。

** *von* は 3 格支配だから *Herr* は 3 格にしなければならないが、それは *Herrn*。 (⇒教科書 S. 18)

*** *grüßen* は他動詞で「(4 格) に挨拶する」。 (⇒教科書 S. 18)

Ihr Mann **soll** Ingenieur sein.

彼女の夫はエンジニアだそうだ。(噂)

* ニュアンスは「彼女の夫はエンジニアだ、と世間が言っている」。

** Ingenieur はフランス語式発音で、ge[ʒe]や eu[ø:]の部分はドイツ語の規則とは異なる。つまり、この場合の eu はドイツ語でいう ö と同じ音になる (CD で要確認)。

■ wollen の意味と用法

wollen : 平叙文 → 主語の意思 (～したい) = *want to*

Wollen wir ... ? → 促し (～しよう) = *Let's*

◇ **wollen** は、平叙文では「～したい」という**主語の意思**、ただし主語を複数 1 人称とする決定疑問文では「～しよう」という**促し**を意味する。

* wollen=自分の意思/sollen=他者の意思と考えればよい。

** 語源的には *will* だが、*want to* や *let's* に近い使い方をする。

Er **will** dich morgen besuchen.

彼は君を明日、訪ねるつもりだ。(主語の意思)

Wollen wir eine Tasse Kaffee trinken?

コーヒーを一杯飲もうか。(促し)

* eine Tasse Kaffee (*a cup of coffee* に相当) については後述。

■ mögen の意味と用法

mögen : 助動詞として → 好み (～するのが好きだ) = *like to*

→ 推量 (～だろう) = 推量の *may*

本動詞として → 〈4 格〉が好きだ = *like*

◇ **mögen** は、「～するのが好きだ」という**好み**、「～だろう」という**推量**を意味する。

* 語源的には推量の意味の *may* に対応するが、*like to* に近い使い方もするといえる。

Sie **mag** nicht mit dem Auto fahren.

彼女は車で行くのを好まない。(好み、話法の助動詞)

Sie **mag** etwa 50 Jahre alt sein.

彼女は 50 歳くらいだろう。(推量)

* 50 は *fünfzig* と読むが、いまは読めなくてよい (教科書第 9 課の範囲)。etwa は「約」の意味。

** Jahre alt は *years old* の意味。

◇ 一方、**mögen** は本動詞 (話法の助動詞ではない普通の動詞) としても使うことができ、その場合は「〈4 格〉が好きだ」の意味の他動詞になる。

* ドイツ語には英語の *like* に当たる他動詞がないので、こちらで代用する。

Wir **mögen** ihn, denn er ist sehr freundlich. (⇒教科書 S. 25)

我々は彼が好きです、なぜなら彼はとてもいい人だからです。

■ möchte の意味と用法

möchte : 丁寧な願望 (～したい) = *would like to*

◇ möchte は、「～したい」という (丁寧な) 願望を意味する。

* möchte が mögen の別形 (接続法 II 式) であり、独立した語法の助動詞ではないことは、すでに述べた (本資料 S. 2)。

** 同じ「～したい」でも wollen より丁寧な言い方になる。接続法は英語の仮定法と同じく婉曲表現になるため。ちょうど仮定法を用いた英語の表現 *would like to* に対応する。

Ich möchte gern Frau Schmidt sprechen.

シュミットさんとお話したいのですが。(願望)

* この sprechen は「(4 格) と話す」の意味であって、「(4 格) を話す」ではない。

■ 助数詞

Wollen wir eine Tasse Kaffee trinken?

コーヒーを一杯飲もうか。

◇ この eine Tasse (カップ 1 杯の) は、数えられない名詞 Kaffee (*m.* コーヒー) を量る際に用いる助数詞である。英語 (*a cup of coffee*) と異なって前置詞は必要なく、測るべき名詞と同格になる。ほかには、

- ein Glas グラス 1 杯の (*n.*)
- ein Krug ジョッキ 1 杯の (*m.*)
- eine Flasche 瓶 1 本の (*f.*)

Ich möchte gern einen Krug Bier trinken.

ビールをジョッキ 1 杯飲みたい (ください)。

* Bier が他動詞 trinken ((4 格) を飲む) の目的語であるため、助数詞の ein Krug も同格の 4 格 (einen Krug) になっている。

■ 練習問題の補足

Übung 1 (S. 30)

1. viel (多くの) は、英語の *many* や *much* に相当する (可算か不可算かによる区別はない)。
2. einen Augenblick は時間を表す副詞的 4 格で、「一瞬」の意味。動詞の 4 格目的語ではなく、文中では副詞として扱う。ほか、jeden Tag (毎日)、dieses Monat (今月) など。

Übung 2 (S. 30)

3. この es は自然現象を言うときに用いる主語で、英語の *it* に同じ。 (⇒教科書 S. 21、S. 57)

Übung 3 (S. 30)

3. mehr は前述の viel の比較級で、「もっと」の意味。英語の *more* に相当。

* viel は正確に言えば形容詞ではなく不定代名詞の仲間であるが、比較級や最上級が存在する。 (⇒教科書第 16 課)

Übung 5 (S. 31)

2. länger は形容詞 lang の比較級で、「より長い」の意味。この場合は副詞的用法で「より長く」。
3. dazu は前置詞と人称代名詞の融合形だが、特に「そのために、それについて、それに加えて」の意味で用いられる。 (⇒教科書 S. 27)

II 使役動詞と知覚動詞

2 話法の助動詞に準ずる動詞 (使役動詞、知覚動詞) (S. 31)

使役動詞・知覚動詞 → 第 2 位 (定動詞の位置)
不定詞 → 文末

◇ **lassen** は**使役動詞**全般として使うことができ、

- ・ 話法の助動詞のように不定詞と併用する。その際、やはり不定詞は文末。
- ・ 意味は「〈4 格〉に〈不定詞〉させる」、つまり 4 格目的語が意味上の主語となる。

* 英語の *let* と語源を同じくする語だが、英語の *let* は「~するのを許容する」の意味で、「強制的に~させる」の意味の *make* や「~するのを待つ」の *have* とは区別される。ドイツ語にはこのような使い分けはなく、「~させる」一般を *lassen* で表す。

Ich **lasse** ihn kommen.

私は彼を来させる。

* 「来る」のは「彼」であること、つまり *kommen* の意味上の主語が *ihn* であることに注意。

◇ **hören** や **sehen** のような**知覚動詞**も

- ・ 話法の助動詞のように不定詞と併用する。その際、やはり不定詞は文末。
- ・ 意味は「〈4 格〉が〈不定詞〉するのを聞く/見る」、やはり 4 格目的語が意味上の主語となる。

* 英語でも、*hear* や *see* は、「原形不定詞」と併用する、と説明される。

Ich **höre** ihn singen.

彼の歌うのが聞こえる。

* 直訳すると「私は彼が歌うのを聞いている」。「歌う」のは「彼」であること、つまり *singen* の意味上の主語が *ihn* であることに注意。

◇ なお、*lassen* および *sehen* は、単数 2・3 人称で幹母音が変音する動詞であることに注意。一方、*hören* は規則動詞である。 (⇒教科書第 3 課)

	lassen	sehen
ich	lasse	sehe
du	lässt	siehst
er	lässt	sieht
wir	lassen	sehen
ihr	lasst	seht
sie	lassen	sehen

* *lassen* は語幹が-s で終わるため、*reisen* 型の要素も含まれ、*du lässt* と *er lässt* が同型となる。*lesen* が *du liest, er liest* となるのと同じ。

連絡先など

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>